

医療法人信和会

沖縄県医師会

全国医師国民健康保険組合連合会

故 宮城信雄 先生 合同葬

令和3年7月17日（土）午後2時・サンレー那覇北紫雲閣



去る7月12日ご逝去された沖縄県医師会顧問・前会長、元日本医師会理事、全国医師国民健康保険組合連合会会長 故 宮城信雄 先生（享年75歳）の合同葬（医療法人信和会、沖縄県医師会、全国医師国民健康保険組合連合会）が、7月17日（土）午後2時から那覇市内のサンレー那覇北紫雲閣にて、しめやかに執り行われました。

葬儀当日は、安里哲好沖縄県医師会長、全国医師国民健康保険組合連合会 副会長 近藤邦夫先生（代理：総務担当理事 谷澤義弘 先生）から惜別の辞が捧げられました。また、ご遺族を代表して、ご子息の宮城智央先生から謝辞が述べられました。

宮城信雄先生を偲んで、これまで親交の深かった先生方より追悼文をご執筆いただきましたので、併せてご紹介したいと思います。

宮城信雄 先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

常任理事
照屋 勉

弔辞



沖縄県医師会
会長 安里 哲好

本日、ここに沖縄県医師会顧問、前沖縄県医師会会長、元日本医師会理事、全国医師国民健康保険組合連合会会長、故宮城信雄先生の葬儀を、医療法人信和会、沖縄県医師会、全国医師国民健康保険組合連合会の合同葬として執り行うに当たり、沖縄県医師会を代表して謹んでお別れの言葉を申し上げます。

私ども会員が最も敬愛し信頼を寄せておりました先生と突然お別れすることは、未だ現実として受け入れがたく、ただただ残念な思いであります。

先生は、平成18年4月に沖縄県医師会副会長を経て第31代沖縄県医師会会長にご就任され、6期10年余にわたり沖縄県の医療界を牽引してこられました。会長就任時に「地域に根差した活力ある医師会」を提唱し、会内外の活動において素晴らしい実績を上げてこられました。

中でも特筆すべき事項として、県知事へ直接提言できる医療アドバイザーの役割を担う政策参与の誕生に尽力され、本県の離島・へき地医療対策、産婦人科医不足、県立病院事業対策、助産師・看護師不足対策に大きく貢献されました。さらには、平成20年11月には会員が長年待ち望んでいた医師会活動の拠点となる会館を竣工させ、本県の地域医療活動、学術振興の発展にも大きく寄与されました。

また、平成24年から2年間日本医師会理事、平成25年4月には九州医師会連合会会長にご就任され、中央や九州でも輝かしい足跡を残されてきました。沖縄県医師会会長退任後の平成29年10月には全国医師国民健康保険組合連合会会長にご就任され、文字通り八面六臂のご活躍をされました。

宮城先生は、お酒が強く、こよなく泡盛を愛しておられました。私も医師会の行事の後の懇親会や二次会等によくご一緒させていただきましたが、普段謹厳実直な先生が酔うほどに柔和な表情になるお姿を懐かしく思い出します。

現在、新型コロナウイルス感染症が人々を苦しめております。本県は大きな感染拡大が続く医療が逼迫する中、医療崩壊を起すことなく大きな波を超えてきています。これは、先生が会長時代の平成21年に新型インフルエンザ流行を乗り越えるために大学、県立、国公立、民間病院、地域の診療所がそれぞれの責任を果たしつつ密に連携し取り組んだ経験が大きな力となっているのです。私共はこれまで先生が築いてこられた遺徳を無にすることなく沖縄の地域医療並びに医師会活動の充実発展に努力することをお誓い致します。

どうか、奥様をはじめご遺族の行く末に、ご加護あらん事をお祈り致しますと共に、私共をいつまでもお守り下さいますようお願い申し上げます。ここに、謹んで先生のご生前のご功績とご遺徳を偲び心から哀悼の意を表すると共にご冥福をお祈り申しあげましてお別れの言葉といたします。



全国医師国民健康保険
組合連合会
代読：総務担当理事
谷澤 義弘

全国医師国民健康保険組合連合会会長宮城信雄先生のご霊前に、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

去る7月13日、全医連事務局からの電話がかかり、宮城会長の突然の訃報を受け、ただただ驚き、受け入れがたい悲しみと共に、本日沖縄の地にやってまいりました。数日前にも、お電話で8月の代表者会についてお話をさせていただいたところで、今なお信じがたい気持ちで一杯です。

宮城先生は平成18年4月、沖縄県医師国保組合理事長にご就任され、平成26年には全医連の理事、平成29年10月に全医連会長にご就任されております。私も副会長にご指名をいただき、以後全医連の運営に携わらせていただきました。

会長ご就任の当日に二人でお話をさせていただきました。

温厚実直なお人柄、しっかりとポイントを押さえてお話しされるのをお聞きしながら、全医連30万人の被保険者を守っていただける素晴らしい会長が就任されたことを大変喜んだことを思い出します。

医療制度の現況を見ますと、当時から全医連にとって高額薬剤による財政逼迫が大きな課題となっておりました。

医療人としては、国民皆保険制度のもと、新しい薬剤の承認はこれまでの不治の病も治ることは大変喜ばしいものです。しかし保険者の立場からすると大変大きな財政負担が生じてまいりました。

長年にわたり検討してまいりましたが、今のまま新しい薬剤が承認され保険者がその支払いを続けていこうとするならば、早かれ遅かれ日本の皆保険制度が崩壊する可能性もあるという危機感を持つようになってきました。

宮城会長は、この問題を全医連の最重要課題として取り組まれました。

全医連のみでは解決が難しい課題も見えてきて、日本医師会をはじめ全国国民健康保険組合協会、厚生労働省、国会議員の先生方のご理解とご協力をいただき、本年4月に400万円を超える高額医療費に対する補助金が決定し、ようやく全医連の進むべき道が見えてまいりました。4年間共に仕事をさせていただき、宮城会長の獅子奮迅のお働きに敬意と感謝を申し上げます。

これまで会長を先頭に、厳しい全医連の現状改善に取り組んでまいりましたが、今大きな支えが無くなった思いが致します。

先生は、どの会議でもお話しされた言葉があります。

「我々は、全国47医師国保組組合の一つの組合も解散することの無いようにする。それが我々の務めである。」と言い続けてまいりました。

現状はまだまだ道半ばであります。先生の熱い思いを我々はしっかりと受け継いで今後とも全医連の最重要課題として取り組んでまいりますことを、お誓い申し上げてお別れの言葉と致します。

家族代表挨拶



二男

宮城 智央 先生

遺族、親族を代表してご挨拶を申し上げます。

本日は、ご多用中、父宮城信雄の告別式にご会葬を賜り、心から御礼申し上げます。

7月12日、職場の沖縄第一病院にて院内会議後の筋肉トレーニングの最中に、大動脈解離により突然、74歳にてこの世を去りました。ゴルフの飛距離を競うドラコン賞をもらうなど、筋力増強に父自身が喜び、心身ともに健康でした。

十数年ほど前までは、毎年、那覇と沖縄マラソンを3時間台で完走し、また、数多くの100キロや270キロマラソンを完走するなど、強靱な体を維持していました。しかし、心臓の弁膜症が見つかり、「忙しくなったからマラソンを卒業する。」と周囲には語っていましたが、好きだったマラソンを引退して、心臓に負担をかけないゴルフをしていました。最後の最後まで、仕事やトレーニングなど全てに一生懸命な父でした。

父の生まれは、離島石垣のさらに離島の小さな黒島です。私たち兄弟が子どもの頃に家族旅行でそこに行き、「ここは、人よりも牛が多くて小さな島だけど、ここで生まれ、後に家族は沖縄本島に渡り、生活に苦労した。」と話しました。

子供の頃から成績はトップクラスで、医学か物理学かで考えた末、医学の道を選びました。進学した大阪大学では医学の他、当時盛んであった沖縄返還の学生運動を一生懸命にしていました。この頃に父と母は知り合って結婚しました。長男が生まれた昭和47年に沖縄が返還されました。その頃から現在まで政治活動を続けていました。

大学卒業後は、学生運動の時に入った民青同盟とつながりのある民医連である大阪の耳原総合病院に就職しました。その時初めて担当した患者さんが末期腎不全で透析が必要でしたが、職場には透析がなく、周囲の病院にも透析施設が少なく受け入れが困難だったため、他施設で透析を学んで、耳原総合病院に透析を開設しました。医師5年目に、沖縄ではほとんど普及していない透析治療を受けに沖縄から大阪まで来た患者さんがいたことを契機として、沖縄で透析治療が普及するために、沖縄に戻りました。民医連である沖縄協同病院で透析室を立ち上げ、日中仕事がある患者さんのために、沖縄で初めて夜間透析を取り入れました。私たち兄弟が幼いころ、病院の駐車場や医局で父が来るまで遊んでいたのを覚えています。

今回の通夜に、耳原総合病院と沖縄協同病院の時に一緒になって苦労して開設した透析室の看護師の方々が多く来られ、ひつぎに横たわる父へ、「あの時はみんなで頑張ったね。おかげで沖縄でも透析が普及しているよ。」と涙ながらに声をかけているのをみて、父が残した遺産を心から実感しました。

透析を引き継げる後輩が育った後、自分が理想とする医療のために、内科がなかった南風原町で1982年に南風原クリニックを開業しました。最初の患者さんは3か月の赤ちゃんでした。その患者さんが成人になった時、開院20周年の祝賀会に参加されました。透析患者さんの循環器・消化器・整形外科などの合併症治療のために、医師を増やして3年後に沖縄第一病院と改称しました。父は、いつでも病棟へ行けるように、屋上にプレハブ小屋を立て、家族は一緒に病院に住むようになり、父はよく院長室にい

ました。病院の屋上から南風原小学校に通っていたのを懐かしく思います。子供が独立した後も、父は病院に最後まで住んでいました。

内科がなかった南風原町は、その後、多くのクリニックや病院が開設し、医療は充実してきました。父は、地域医療のバランスを保つために、沖縄第一病院の規模や開設する診療科を考えていました。「近くにいいクリニックや病院があるから、沖縄第一病院ではその診療科を増やさない。」「1次・2次・3次救急の連携と地域医療のバランスを調整するために医師会活動を行い、貧富関係なく多くの患者さんを治療するために政治での活動が必要に迫られてやっている。」と常に語っていました。そのために、仲井眞弘多元県知事の沖縄21世紀ビジョンを実現する県民の会の会長に就任し、仲井眞元県知事とは今でも交流が続いていました。父は、政治活動も一生懸命でしたが、「いい医療のためには、どの政党や政治家であっても、必要な時には応援するし、また、批判もする。」と語っていました。また、沖縄のみならず、日本や世界などに幅広い視野をもっていました。

沖縄第一病院の広報誌みなみかぜの1月号は父の年頭挨拶が定番です。2021年は、コロナと「まさか時代」を述べています。突然父がこの世を去ったことは、どなたも「まさか」を口にします。沖縄第一病院は、昨年から発熱外来にて新型コロナ検査を開始し、また、新型コロナの透析患者さんの入院受け入れを父は指揮していました。父が去る前の夜に、父は母のためにおかずを買い、コインランドリーの洗濯によく一緒に行く仲でした。父と母が電話で会話した2時間後に倒れました。二人は今年、結婚50周年でした。

患者さんのことを第一に考えて医療を行っていた父でした。父は毎年、年頭挨拶に次の言葉で締めくくっていました。父が大切に思っていたことです。父に代わって読み上げます。

「医療法人信和会沖縄第一病院、おおざと信和苑、有料老人ホームそよかぜ、ふれあい訪問看護ステーション、通所リハビリテーション・通所介護センターが患者さんや利用者から喜ん

でもらえるよう職員一同力を合わせて努力する所存です。皆様方のより一層のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。」

本日は、ご会葬を頂き、誠に有難うございました。

故人の略歴

みやぎ しんゆう
宮城 信雄 先生

昭和 22 年（享年 75 歳）

（学 歴 等）

昭和 41 年 03 月 琉球政府立普天間高等学校卒業

昭和 47 年 03 月 国立大阪大学医学部卒業

（職 歴 等）

自：昭和 47 年 04 月 01 日 医療法人同仁会

至：昭和 52 年 12 月 17 日 耳原総合病院勤務

自：昭和 52 年 12 月 18 日 医療生協

至：昭和 57 年 12 月 31 日 沖縄協同病院勤務

自：昭和 58 年 01 月 01 日 南風原クリニック開業

至：昭和 60 年 06 月 30 日（院長）

自：昭和 60 年 07 月 01 日 南風原クリニックから

至：昭和 60 年 12 月 31 日 医療法人信和会沖縄第一病院へ名称変更（院長）

自：昭和 61 年 01 月 01 日 医療法人信和会沖縄第一病院（理事長兼院長）

至：平成 19 年 03 月 31 日 第一病院（理事長兼院長）

自：平成 19 年 04 月 01 日 医療法人信和会沖縄第一病院理事長

至：平成 28 年 03 月 31 日 第一病院理事長

自：平成 28 年 04 月 01 日 医療法人信和会沖縄第一病院理事長兼同法人介護老人保健施設おと信和苑 施設長

（医師会関係）

南部地区医師会

自：昭和 63 年 04 月 01 日 南部地区医師会 理事

至：平成 04 年 03 月 31 日

自：平成 04 年 04 月 01 日 南部地区医師会

至：平成 06 年 03 月 31 日 常任理事

自：平成 06 年 04 月 01 日 南部地区医師会

至：平成 12 年 03 月 31 日 副会長

自：平成 12 年 04 月 01 日 南部地区医師会

至：平成 16 年 03 月 31 日 会長

沖縄県医師会

自：平成 14 年 04 月 01 日 沖縄県医師会

至：平成 18 年 03 月 31 日 副会長

自 平成 18 年 04 月 01 日 沖縄県医師会 会長

至 平成 28 年 06 月 23 日

九州医師会連合会

自：平成 14 年 04 月 01 日 九州医師会連合会

至：平成 18 年 03 月 31 日 委員

自：平成 18 年 04 月 01 日 九州医師会連合会

至：平成 25 年 03 月 31 日 常任委員

自：平成 26 年 07 月 01 日

至：平成 28 年 06 月 23 日

自：平成 25 年 04 月 01 日 九州医師会連合会

至：平成 26 年 06 月 30 日 会長

日本医師会

自：平成 14 年 04 月 01 日 日本医師会 代議員

至：平成 28 年 06 月 24 日

自：平成 22 年 04 月 01 日 日本医師会 理事

至：平成 24 年 03 月 31 日

その他

自：平成 14 年 04 月 01 日 沖縄県社会保険診療

至：平成 19 年 03 月 31 日 報酬支払基金 幹事

自：平成 18 年 03 月 17 日 沖縄県保健医療福祉

至：平成 25 年 03 月 31 日 事業団 理事

自：平成18年04月01日 日本学校保健会
至：平成25年03月31日 評議員
自：平成27年04月01日 日本学校保健会 理事
至：平成28年06月23日

自：平成18年04月01日 沖縄被害者支援ゆい
至：平成28年03月31日 センター 副理事長

自：平成18年05月25日 沖縄県社会福祉協議会
至：平成28年11月30日 理事

自：平成23年04月01日 沖縄県クリニカルシミュ
至：平成28年06月23日 レーションセンター事業
構想委員会 委員

自：平成25年04月01日 公益財団法人 沖縄県
至：平成28年06月26日 保健医療福祉事業団
代理理事

(審議会関係歴)

自：平成12年08月03日 沖縄県社会福祉審議会
至：平成18年08月21日 委員 (社協)

自：平成14年07月08日 沖縄県へき地医療支援
至：平成18年03月31日 計画策定等会議 委員
(沖縄県)

自：平成14年12月24日 沖縄県立病院経営健全
至：平成16年03月31日 化対策検討委員会 委員
(沖縄県)

自：平成18年04月01日 沖縄平和賞委員会
至：平成28年03月31日 委員 (沖縄県)

自：平成18年04月01日 沖縄県医療審議会
至：平成28年06月23日 委員長 (沖縄県)

自：平成18年04月01日 沖縄県行政改革懇話会
至：平成28年06月30日 委員 (沖縄県)

自：平成18年04月01日 沖縄振興開発金融公
至：平成28年11月23日 庫運営協議会 委員
(内閣府沖縄振興局)

自：平成19年04月01日 沖縄県医療提供体制
至：平成28年06月23日 推進事業事後的評価
委員会 (沖縄県)

自：平成20年04月01日 沖縄県医療審議会県
至：平成21年03月31日 立病院のあり方検討
部会 部会長 (沖縄県)

自：平成20年04月01日 沖縄県がん診療連携協
至：平成28年06月23日 議会 委員 (琉球大学)

自：平成20年09月11日 沖縄県振興審議会
至：平成22年09月10日 委員 (沖縄県)

自：平成21年04月01日 沖縄県ドクターヘリ
至：平成28年06月23日 運航調整委員会 委員
(沖縄県)

自：平成21年12月25日 沖縄県振興審議会福
至：平成22年09月10日 祉保健部会 部会長
(沖縄県)

自：平成23年04月01日 沖縄県振興審議会福
至：平成25年04月24日 祉保健部会 部会長
(沖縄県)

自：平成23年04月01日 沖縄県振興審議会
至：平成28年03月31日 委員 (沖縄県)

自：平成23年04月01日 東日本大震災支援協力
至：平成28年06月23日 会議 (沖縄県)

(国民健康保険組合関係)

沖縄県医師国民健康保険組合

自：平成18年04月01日 沖縄県医師国民健康
至：令和03年07月12日 保険組合 理事長

全国国民健康保険組合協会

自：平成19年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成21年03月31日 険組合連合会 監事

自：平成23年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成25年03月31日 険組合連合会 理事

自：平成29年11月15日 全国国民健康保険組
至：令和03年07月12日 合協会 副会長

全国医師国民健康保険組合連合会

自：平成18年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成20年03月31日 険組合連合会 理事

自：平成19年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成20年03月31日 険組合連合会 運営委員
会委員

自：平成23年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成25年03月31日 険組合連合会 国保問
題検討委員会委員

自：平成26年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成28年03月31日 険組合連合会 理事

自：平成27年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成28年03月31日 険組合連合会 運営委員
会委員

自：平成29年10月21日 全国医師国民健康保
至：令和03年07月12日 険組合連合会 会長・運営
委員会委員長

九州地区医師国民健康保険組合連合会

自：平成18年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成19年03月31日 険組合連合会 副会長

自：平成19年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成20年03月31日 険組合連合会 会長

自：平成26年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成27年03月31日 険組合連合会 副会長

自：平成27年04月01日 全国医師国民健康保
至：平成28年03月31日 険組合連合会 会長

沖縄県国民健康保険団体連合会

自：平成18年07月18日 沖縄県国民健康保
至：令和03年07月12日 険団体連合会 理事

(賞罰関係歴)

平成10年10月11日 臓器不全対策推進功
労者感謝状

平成11年12月11日 医事功労県医師会長賞

平成23年11月01日 日本医師会最高優功賞

平成30年04月29日 旭日小綬章受章

追悼文

宮城信雄先生の思い出

はえばる皮ふ科医院
江夏 力

突然の宮城信雄先生の訃報に、ただ驚くばかりでした。つい先日、宮城先生と一緒にゴルフを楽しんで、元気な姿を目にしていたので、とても信じられず、沖縄第一病院に確認の電話をいれました。それでやっと宮城先生に、何が起こったのか分かりました。宮城先生が、いつものようにリハビリ室でのトレーニングをしている最中に、気分不良を訴え、ベッドで休んでい

るうち、急変し、友愛医療センターへ搬送したが、救命できずに亡くなったとのことでした。後で分かった死因は大動脈解離との事でした。解離した部位が、運悪く心臓の近くで、救命できなかったとのことでした。思い返せば、宮城先生との付き合いは、彼が小学3年の時に、普天間小学校に転校してきた頃まで遡ります。小学時代の宮城先生は、特に目立ったところのな

い、おとなしい生徒だったように記憶しています。普天間小学から普天間中学へと進みましたが、昭和22年生の私達はベビーブームの始まりで、生徒数はかなり多かったように記憶しています。私達が中学3年の頃は、進学熱が高まり、模擬テストの順位が職員室の壁に貼りだされましたが、宮城先生は当時から成績優秀で、いつも、名前が上位にありました。宮城先生も私も、普天間高校へと進学しました。当時の普天間高校は文科、文理科、理数科とクラスわけがあり、宮城先生と私の入った理数科は、7組、8組の2クラスでした。確か宮城先生と私は3年間同じクラスだったように、記憶しています。高校生になると、宮城先生は更に勉学に励み、常に、学年でトップクラスの成績を修めていました。特に宮城先生は物理が得意で、物理学科への進学を希望していましたが、途中で医学部へ進路を変更し、大阪大学の医学部へ入学しました。私は仙台へ行くことになり、宮城先生との日々の交流は、しばらく途絶えていました。それでも、沖縄への帰省の時、大阪に立ち寄り、宮城先生に大阪の名所を案内してもらったことがありました。私は帰沖して沖縄協同病院に勤務し皮膚科を担当することになりましたが、宮城先生も同じ病院の内科に勤務していて血液透析を担当していました。外来、当直、透析と宮城先生は、忙しい日々を過ごしていました。昭和58年に宮城先生は、南風原で透析専門の南風原クリニックを開業しました。一人で外来、透析と、毎日大変な勤務をこなしていました。一年遅れで、私も近くで、眼科 皮膚科のクリニックを開

業しましたが、その時、宮城先生から、いろいろとアドバイスを頂いて、大変助かりました。また、開業時の苦しい時期に、当直などのアルバイトをさせてもらい、大変に感謝していました。南風原クリニックは、宮城先生の頑張りが実を結び、職員も増え、大きな駐車場を備えた、沖縄第一病院へと発展しました。宮城先生は老人医療にも意を注ぎ、老健施設の設立や、デイケア、訪問看護なども始めました。多忙な生活を送りながらも宮城先生は、子供たちの教育にも熱心で、子供たちも医師として、現在活躍しています。宮城先生は医師会活動にも積極的に参加され、南部地区医師会長、県医師会長を歴任されました。よくもあんなに動き回れるものだと、感心していましたが、宮城先生は苦にもせず、楽々とこなしていたようでした。宮城先生は一時期マラソンに熱中し、夕方、暇があればランニングするのを日課にしていたようでした。最近はゴルフに熱心に取り組んでいて、めきめきと上達していました。実は私が帰沖した時、ゴルフ仲間が欲しくて宮城先生をゴルフに誘いましたが、当時、宮城先生はマラソンに夢中で、ゴルフにあまり興味を示さず、途中で止めてしまいました。その時、続けていたら、かなり上手になっていただろうと思います。宮城先生とのラウンドは楽しみでした。これから旅行をしたり、ゴルフに出かけたり、まだまだ、やりたい事は一杯あったらと思います。誠に無念な宮城信雄先生の急逝です。

医師を志した普天間高校18期生10数名の思いも込めて、宮城信雄先生、安らかに眠り下さい。

宮城信雄先生との思い出

沖縄県医師会元副会長 那覇西クリニックまかび
玉城 信光

酒の強い人でした。九州地区医師会の集まりが沖縄で行われる度に、横倉日本医師会長をはじめ、九州各県の会長に泡盛は薄めて飲んではいけません。お猪口で飲んで香りや味を楽しんで

欲しいと話していたのが思い出されます。沖縄第一病院には大きな泡盛熟成用のタンクがあるということです。その貴重な酒を飲む機会を失ってしまったのは大変残念です。

宮城信雄沖縄県医師会長が誕生し、初めての日医代議員会のことです。昭和41年に沖縄から大学に出て行った同期の人ですが、会議ではよく一緒になりました。しかし食事をする機会はその時が初めてでした。新橋の居酒屋で二人で日本酒をどれだけ飲んだかわかりません。一緒にいた小渡先生がこの様なアル中とは付き合えないとの顔をしていたのが思い出されます。

県立那覇病院の移転が議論された際、実務者会議に宮城信雄先生、宮古の中村貢先生、私も出席しました。議長は當山護先生でした。新築される那覇病院はどの様な機能を持つべきかが議論されました。3名の意見はほぼ一致しており、「中部病院で研修を終えた4年目以降の研修医が働ける病院が良い」とのことでした。しかしながら県立病院の院長先生の間では「中部病院と同じ初期研修ができる病院」とのことでした。新しいものを作っていきたいという若手の宮城信雄、中村貢、私の意見が正しかったことは今でも変わりません。その高度多機能病院に沖縄県の心臓病の子供達を持つ親の会などが沖縄で心臓の手術のできる子供病院を作ってくれとの嘆願があり「こども医療センター」ができました。これは私たちも思いつかなかった大ヒットだと思います。

県医師会の最初の事業は医師会館の建築でした。浦添の医師会で新築移転が計画され設計されていきました。稲嶺知事の頃に浦添の土地と現在の新川の土地の等価交換を沖縄県と交渉し成立させました。この様な宮城会長の指導力で新川地区は現在の医療福祉ゾーン形成に至りました。また会員の先輩方からはチャチなものではなく、立派な会館を作る様にとのメッセージをいただき、理事会で検討を重ねた結果、四角い建物ではなく、現在の堂々とした鳳凰が沖縄県医師会と沖縄県を抱き抱えて育てていく様な

設計になりました。2008年12月に落成式が挙行されました。

宮城先生の足跡は仲井真知事との二人三脚の様な感じがします。県知事選挙のおりに仲井真候補の後援会長を引き受け見事当選に漕ぎ着けました。当選後、私の知らないところで県の医療系の政策参与を置くことが話され、私に白羽の矢がたてられました。その当時の沖縄県の課題は「県立病院の赤字」でした。私が県立那覇病院に勤務しているときにも同様な話が続き、政策参与をする様に宮城会長から指示されたときには喜んで引き受けました。仲井真知事、副知事、病院事業局長、福祉保健部長などの集まりに私も参加し、「知事より県立病院の赤字はどうにかならないか」と皆に疑問が投げかけられました。仲里副知事はこれまでの経緯から大変難しいとのことでした。しかし知事は「県立病院のあり方検討委員会」を作り宮城信雄会長に座長をお願いし、私も参加しておりました。仲井真知事は75億円の予算を3年間県立病院に注ぎ込み県立病院の赤字を解消しました。それと並行して「あり方」の検討も進み、宮城会長のもと「独立行政法人化」が良いとの結論が出されました。那覇市立病院が独法化を行い、生き生きと仕事をしていることを見るにつけ県立病院も早くその様な歩みを進んで欲しいと思ったのですが、県議会で少数与党の仲井真知事は議案の提出をしませんでした。

宮城会長はマラソンが好きで100キロマラソンにもよく参加していたと話しておりました。走ることが苦手の私には考えられないことです。体力も十分な宮城会長の政治力、行動力が期待されるこの時期に急逝するとも夢にも思いませんでした。大変残念です。ご冥福をお祈り致します。

宮城信雄先生との思い出

副会長
宮里 達也

この様な追悼文を書くことになったことは思いもよらぬ痛恨事である。7月12日、前県医師会長の宮城信雄先生が加圧式筋力トレーニング後に大動脈解離による心タンポナーゼを発症、急逝なさった。大学時代からお世話になってきた先輩の死は私にとって受け入れがたい悲しみである。

宮城先生は私より4歳年上の先輩である。大学時代、先生は吹田市千里が丘の沖縄県学生寮におられた。当時の学生寮は古い木造でネズミやゴキブリと同棲しているような状態であった。年に数度、関西在の沖縄出身学生がそこで交流する機会があり、何度か尋ねて酒を飲みながら沖縄の将来を論じ合った。

卒業後は専門分野が異なっていたため長く没交渉となっていたが、私が南部保健所に赴任した際にあいさつに行き再会した。その後、行政官の私にとって医師会のリーダーであった先生は心強い後ろ盾になっていただいた。

何かの飲み会の席だったと思うが、先生に私が本部町の出身で将来山原に何らかの貢献をしたいと話したことがあった。その時先生は、「私の父は本部伊豆見の出身である。貧しさのため“イトマンウイ（漁師のもとに売られること）”され八重山の漁民として黒島に流れついた。そこで先生は生まれた。その後貧しさから脱出するため一家は普天間に移り住んだ。そういうことで私も北部とは無縁ではない。応援するから頑張ってもらいたい。」と励ましてくれた。

平成19年のことだったと記憶しているが、ハーバービューホテルで開催された医師会代議員総会の後、先生から当時の北部地区医師会会長名嘉真透先生を紹介された。宮城先生は「北部地区医師会は病院の経営問題で大変困っておられる。行政の立場から力になってあげてくだ

さい。」そのように私に指示なさった。私と北部地区医師会の関係はその時から始まった。

その後の私と北部地区医師会との関係は詳しくお話しませんが先生からも節目、節目にいろいろ指導していただいた。特に北部地域医療の最大の課題は（公設）沖縄県北部医療センター建設であるが、宮城先生にはその実現のため力になっていただいた。病院新設が令和8年に建設されることが県の正式な行政計画にあげられ準備が進んでいる。先生には何としてもその時まで元気でいていただきたいかった。返す返す残念でならない。

さて現在、新型コロナが大変な勢いで流行している。思い返せば平成21年にも新型インフルエンザの流行があり一気に社会不安が広がったことがある。私はその当時、県の保健医療分野の責任者であった。その時も沖縄県は全国一の感染状況に陥った。8月には全国初の死亡例が発生した。県内各地で重症者も相次いだ。保健所からの疫学情報を検討したところタミフルがかなり有効であることが分かった。専門家の藤田次郎琉球大学教授もそのように考えていることが分かった。

宮城先生にタミフルを臨床診断で早期投与することを相談した。先生も同じ意見であったが当時、未成年者へのタミフルの投与はいろいろ言われており司法的争いもある状況であった。またそういったやり方は保険診療として認められていなかった。さらにCDCの治療指針にもなかった。そんな中で私は決断したいと宮城先生に相談したのであった。

タミフルの臨床診断による早期投与というのは当時の国の基準になかった。先生は「これをやれば保険外診療となり医療機関には2億から3億円の損害を被る恐れがある」と話された。

しかし「人の命は金に換えられない」と早期投与を強力に支援していただいた。その後、沖縄の対処方針はNHKと朝日新聞によって全国に紹介された。また効果も劇的であった。そのため国も沖縄の方針を追認することになった。宮城先生への御恩は一生忘れものではない。

そのこと以外にも先生とは日ごろから沖縄県の医療提供体制について話し合うことが多かった。先生は常々私に次のような理念を話しておられた。「大学、県立、国公立、民間病院、診療所がそれぞれの責任を果たしつつ連携し、あたかも一つの巨大な地域総合病院が存在するような、そういった医療提供体制をつくる」

「大学が偉い、いや県立が優れている。そういった話はナンセンスである。県民に最良の医療を提供することだけが問題である。」そのように話しておられた。

今まさにコロナの流行が我々医療界へ大きな試練となって襲い掛かっている。しかし、宮城信雄先生に示していただいた理念に基づきそれぞれが誠実に責任を果たせば必ずや被害の最小化ができ危機を突破できると確信する。先生が示した理念はこれからも我々沖縄の医療人が守り育てていかなければならない。ご冥福を祈ります。

『宮城信雄先生を偲ぶ！』 ～「起きて半畳！寝て一畳！」～

常任理事
照屋 勉

令和3年7月12日PM6:45から、沖縄県医師会館において沖縄県医師国民健康保険組合の理事会が開催されました。通常なら、遅くとも10分前には来館される理事長の宮城信雄先生がいらっしゃらない…。「日時を間違えたかも…？」ということで、直接連絡するよう比嘉事務長にお願いいたしました。すると「体調が悪いので、今日は出席できない！」との連絡あり…。理事長不在ではありましたが、連絡事項を確認後、理事会を終え帰途につきました。そして、翌日、信じることのできない衝撃的な訃報が届きました…。

信雄先生には本当にお世話になりました。先生からの推薦もあり、沖縄県医師会の理事を拝命し、『医師国保』等を担当させていただいております。今まで、年に数回の県外出張に事務方と一緒に同行させて頂きました。年に一度の全国大会オプショナルツアー（写真）には、糸数健先生ご夫妻、宮城信雄先生ご夫妻、小生も女房を引き連れて参加させて頂きました。先生方には『旅の楽しみ方！』を存分に教えて



頂きました。特に思い出深い出張は、福岡で開催される全体会議…。会議終了後の楽しい懇親会を満喫し、お酒とカラオケが大好きな私たちは、まず『中州：河太郎』で新鮮な魚と美味しい日本酒で乾杯…。そして、行きつけの小さなスナックで焼酎のロックを片手に『ナツメロ』を歌い続け、さらに『博多ラーメン＋餃子』で仕上げます。さらにさらに、宿泊するホテルに向かうと近くのコンビニへ…。『ちょこ・つまみ！』を購入し部屋飲み準備完了…。翌日、「手を付けていない『ちょこ・つまみ』がテーブル



の上に並んでいたよ！」と話す信雄先生でした。

また、信雄先生と上里博光先生が発起人となり、総勢7人の先生方が集う『古酒会（コースの会）』という月に一度の楽しい情報交換会があります。『泡盛館』の館長さんと秘書さんをお招きし、40年物の美味しいコース（古酒）を嗜む会です。因みに、この会では「お猪口（チブグァー）」で美味しいコースを「ストレート」で味わうのが暗黙のルールとなっており、「水割り」・「オンザロック」は厳重注意・ご法度です。こういう情報交換会での信雄先生との会話は、とにかくグローバルな内容でした。「医療界」に留まらず「政治・経済」から「教育・環境・国際問題」まで多岐にわたり、まさに『Think globally！ Act locally！（地球規模で考え、地域の中で活動する！）』という感じの会合でした。小生なりに見聞きした情報を話すと、「先生ね～！ いい加減なこと言ったらだめですよ～！」と、何度もお叱りを受けました。また、先生はよく『起きて半畳！寝て一畳！』という言葉の口になされていました。「衣食が足りたら

人のために尽くしなさい！」という教えでした。「無床診療所・有床診療所」から「病院・介護施設」まで、後進を育てつつ強い信念で「医療法人：信和会」を築き上げ、医療界・経済界・教育界にも大きく貢献されました。また一般社団法人：全国医師国民健康保険組合連合会（全医連）の会長として全国津々浦々47都道府県を行脚され、医師国民健康保険の存続のためにご尽力頂きました。他にもいくつかの公益法人に関わっていて、先生に対し『尊敬』以外の言葉が見つかりません。本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

【宮城信雄先生から教えて頂いた3つのこと！】

- ①「起きて半畳！寝て一畳！天下取っても二合半！」～「起きてても半畳、寝ても一畳あれば足りる！。贅沢は慎むべきべきである！」という教えです。「吾唯足知（吾、ただ足るを知る！）」を实践されていたのでしょうか。
- ②「正確な情報を、正確に伝えること！」～「フェイクニュースに惑わされることなく、グローバルにアンテナを張り続けること…！」という教えです。「Think globally！ Act locally！」…。
- ③「あいうえお！」と「かきくけこ！」～「あ：逢いたい人に逢う！（我逢人！）」、「い：行きたい所に行く！（旅のススめ！）」、「う：嬉しいことをする！（ゴルフのススめ！）」、「え：笑顔で選ぶ！（笑顔は0円！）」、「お：美味しいものを食べてぐっすり眠る！（快食・快眠のススめ！）」～「か：考えて・感動して・感謝する！」、「き：嫌わず・気付いて・気を配る！」、「く：くじけず・くさらず・繰り返す！」、「け：謙虚に・健康的に・建設的に！」、「こ：好奇心と・行動力で・貢献する！」…。

最後に、「あ：愛」「い：命」「う：運」「え：縁」「お：恩」～『愛』されて親から貰ったこの『命！』『運』を信じて『縁』に感謝し『恩』に報いる！～『恩』=原因を知る心！～『知恩（恩を知り）』、『感恩（恩に感謝し）』、『報恩（恩に報いる）』～本当に本当にありがとうございました。安らかにお休みください！。合掌…。

恩師 比嘉弘文先生を偲んで



故 比嘉 弘文 先生の遺影

令和3年1月5日、恩師比嘉弘文先生が逝去されました（享年79歳）、衷心よりお悔やみ申し上げます。今日の私がありますのも、凡て比嘉弘文先生のお蔭です。あらためて感謝申し上げます。

比嘉弘文先生は徳島大学から東京大学眼科医局に入局され、関連病院である関東労災病院に赴任されました。当時の同病院の眼科部長が深道先生で、その深道部長から高度な手術指導・薫陶を受けられました。深道先生の薫陶、そしてご本人の努力が相俟って、比嘉先生は忽ちオールマイティーな眼科医に成長されました。その噂を聞きつけた当時の県立中部病院の新垣浄治院長が深道部長に三顧の礼を尽くされ、「沖縄のためなら」との快諾を得て県立中部病院の眼科部長として招聘されました。

比嘉先生は前評判に違わず、眼科専門領域全般に亘る眼科手術を完璧にこなされ、多くの患者様に光の恵みを取り戻す手助けをされました。そればかりか、顔面外傷では耳鼻科、口腔外科と、眼窩内腫瘍では脳外科と、専門領域を

超えてのコラボ手術を数多くこなされました。

先生は、沖縄に赴任後、難易度の高い手術も一手に引き受け、県内でOPEが出来なくて本土に患者を紹介するようなことも少なくなり、本人や家族の経済的・精神的負担を減らし、地域完結型の眼科医療を成し遂げた功績は、医療関係者の認める周知の事実であります。

網膜剥離修復術の際、比嘉先生は網膜剥離の原因裂孔にジアテルミーでマーキングし、手際よくバックリングして、アッという間に手術終了といった神業を見せてくださいました。このことは卓越した空間認識能力があってこそその神業で、普段ルービックキューブの六面の色を数分以内に揃える神業を見ている私には納得のいくことでした。

「初めまして。インターン外科研修中の安里です。比嘉先生は毎日午前午後と多くの眼科症例を執刀されていて、本当にすごいですね！」

「ん？君は眼科に興味があるのかね？」

「はい！」

「そうか。君がもし眼科に入局したら、私が

3年間で一人前の眼科医に仕上げてあげるよ！」

この出会いが私と比嘉先生との最初の出会で、そして私が眼科医を目指す決心をした出会いとなりました。1977年（昭和52年）6月県立中部病院11期生として研修開始した44年前のことでした。今にして思うこと・・・良き人生、出逢いに始まり、ご縁で繋がる、その凡てに感謝です。

私が県立中部病院の眼科に入局し多忙な毎日を送っていた一方、比嘉先生は相変わらず超多忙な毎日でした。当時、比嘉先生は名護から通勤していたのですが、昼夜を問わずアイバンク協会・沖縄県ライオンズクラブからの献眼依頼があるので、未明にもかかわらず名護から病院に駆けつけて、眼球摘出・角膜移植術をするという寸暇を惜しんでの献身ぶりでした。

比嘉先生の評判を聞きつけてか、県立中部病院の外来は本島内ばかりか奄美を含む各離島からの患者さんでごったがえし、午後10時頃までの診療は日常茶飯事でした。今では信じられないと思いますが、白内障手術でも2年も待つということがあたりまえでした。

そんな比嘉先生でも忙中閑ありで、時間に余裕があるとき眼科外来は比嘉先生と私の2診になることがありました。

「〇〇さん、今日は比嘉先生がおられますから比嘉先生に診てもらいましょうね」と患者様に声をかけると、その患者様が「いつも診てくれているあなたが比嘉先生でしょう！」と返され、目の前の恩師の苦笑いを気まずく見遣ったことを思い出します。

多忙極まりないにもかかわらず、比嘉先生から眼科学の基礎から学会発表の要領まで細かくご指導いただいたことを思い出します。

「眼科学のバイブルであるDuke-Elderの本は、論文を書くときの最終確認の時には是非読みなさい！」「そして『General Ophthalmology』の本には必要不可欠な内容がすべて網羅されているので、それを基本に勉強しなさい！」と強く推奨されました。

そこで同じく入局した外間政利先生と、早朝

カンファレンスの後、General Ophthalmologyの本を毎日読み合わせしました。外間先生の卓越した英語力にも助けられて僅か半年で読破出来ました。地道な努力の甲斐あって眼科の原著を苦なく読めるようになり、海外の学会にも自信を持って参加出来るようになりました。

月に1度か2度、比嘉先生の奥様より「本日は体調不良のため、本人は登院出来ません。予定の手術の件は宜しくお願いします」との連絡が入りました。指導医のいない中で、外間先生と分担して色々な手術を経験させてもらいました。今から思えば、独り立ちのための恩師の温かいお計らいだったと感謝しています。

比嘉先生の直接指導の際、以下の2つのことを肝に銘じておくように言われました。

1.「眼科医としての健常な目線ではなく、常に目の不自由な方の目線で診療にあたるように」・「『手動弁』、『光覚弁(+)』、『光覚弁(-)』の、この3段階の違いはとてつもなく大きなものだよ」と。琴の先生をしていた身内のお姉様が目の不自由な方で、日頃から彼女の所作を身近にご覧になっておられたからこそその言葉だったと思います。

2.「全国学会は毎年余裕をもって参加、発表出来るように、そのため外傷や手術の統計はその都度まとめておくように」・「努めて、参加しています」。

私が初めて全国学会に参加したのは、比嘉先生ご出身の徳島大学主催の学会でした。その縁あって学会の期間中は離れることなく比嘉先生と行動を共にしました。比嘉先生の眼科医になった動機や、東大医局でのこと、関東労災病院時代の深道先生のこと、同僚の河井先生、稲富先生と切磋琢磨して研鑽した話など、忌憚なくお話してくださいました。このことが契機となり、以来、比嘉先生とは“肝胆相照らす”仲となることができました。

開業して2年目の時、「深道先生（当時の昭和大学教授）からボストンの国際眼科手術学会のお誘いがあるけど、一緒に行かないか？」と、比嘉先生からのお誘いの電話でした。もちろん

二つ返事で承諾し、かくして初めての国際眼科手術学会に参加することになりました。

初めての国際学会は凡てが華やかでアカデミックな熱気がムンムンと漂っていて、まさに興奮の4日間でした。眼科手術機器設備展示場のスケールの大きさには驚かされ、半日見て回っても回りきれないほどの規模と内容でした。学会終了時のフェアウェルパーティーでは、ボストン名産の蟹やロブスター、クラムチャウダーなどの豪華な料理を前にして、日本の各大学の先生方、そして外国の大学の眼科医も一緒にワイングラスを傾けながら楽しく語り合いました。

学会終了後は、ボストンからカナダの仏語圏ケベック方面へレンタカーで移動しました。途中、壮大な峡谷や湖水地方を観光し大自然を堪能しました。粉雪の降りしきるケベックでフランス料理に舌鼓を打ち、美術館や博物館巡りもして、アッという間の夢のような1週間でした。

先生からは学会参加の都度、最先端の学識、手術経験の豊富な錚々たる名医を紹介していただきました。また、国内外で活躍されている助手、講師の先生方も大勢紹介していただきました。その際、「一度契りを結んだ先輩、友人とは絶対に信義を尽くして付き合っていくように」とのご指導もあって、挨拶だけに終わらず繋がりを持ち続けた結果、大きな人脈を得ることができました。今日の大きな人的財産を築くことが出来たのも、ひとえに比嘉先生のお蔭です、あらためて感謝申し上げます。

比嘉先生は外間政利、与那嶺豊、名城知子、大嶺裕英、真壁正明、前原淳子、安谷久美子、玉城静、そして私（安里良盛）など、多くの弟子を育て上げられました。更に名護病院、中部病院、比嘉眼科病院で、多くの昭和大学からの若い派遣医を立派な眼科手術医に育てられ、現在彼らは全国津々浦々で活躍しています。私たちは先生の薫陶を受けた弟子として、病診連携を十分にとりながら地域医療に邁進することを誓います。

ご報恩として、少し喜んでいただけたことが二つあります。一つは、比嘉眼科病院開設の際に連帯保証人を申し出たとき、「安里君、有り

難う。恩に着るよ」と感謝していただいたことです。もう一つは、カジキ釣りにお誘いした時のことです。比嘉先生は初めてにもかかわらず100キロ超級の大物カジキを釣りあげられました。そのときの比嘉先生の欣喜雀躍として歓喜されたお顔は、今でも鮮明に覚えています。

今は天国で、最愛の奥様や師匠の深道先生と、大好きなお酒をたしなんでおられると思います。不肖の弟子だった私もいつか、座右に置いておられた陳舜臣、司馬遼太郎等の歴史本の、そして諸葛孔明、織田信長などの高名な歴史上の人物の、蘊蓄の深いお話をぜひお聞きたいと思っています。

ご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

医療法人水晶会 安里眼科 理事長
安里 良盛



①比嘉弘文先生の学位授与式（昭和大学）



②弘文会総会（年1回）



③幹事真壁正明先生主催の弘文会ゴルフコンペ（宮古島にて）
平成14年11月23日